

『新たなる挑戦』

増毛町立増毛中学校 教諭 山崎 聡士

コロナ禍で厳しい制限のあった3年間の学校教育。我々の生活する増毛中学校でも、厳しい制限の中過ごしてきた。その結果、何の制限も無くみんなで一体となる学校祭を経験する生徒はいなくなった。私も含め、教職員ですら本校の制限の無い学校祭を経験した者は殆どいない。

ここ3年間は、フェイスシールドをつけた合唱コンクール、各学年の総合的な学習のグループでの発表、クイズ形式で行われる観客参加企画はステージで行っていたが、子どもたちが自由に表現するような活動はできていなかった。そのような状況の中、今年度、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、制限が大きく緩和された。

コロナ禍以前の形に戻すこともできたが、「経験の無い子どもたちだからこそ、子どもたち全員が舞台上で輝き、子どもたち自身が創り上げる学校祭づくりに挑戦してはどうか。」というのが教職員の総意であった。全てを創り上げることは難しいため、考え抜いて提案したのは『演（演ずることで観客を楽しませる部門）』『音（音を使って観客を楽しませる部門）』『舞（美しい表現で観客を楽しませる部門）』『観客参加型（観客と一緒に楽しむ部門）』の4つの部門と『合唱コンクール』そして『全校合唱』というものだった。部門はあえて子どもたちが考える余地を残した表現で提案することとなった。

学校祭の提案は、これまで夏休み明けに行っていたが、子どもたちも職員も含め全てが初めての挑戦のため夏休み前に子どもたちに伝えた。内容を聞いた子どもたちから「やりたい!」「楽しみ!」という光の粒が。子どもたちはすぐに考え始める。しかし、そんなにうまくはいかない。【やりたいこと＝楽しんでもらえる】ではないことに気付く。担当の先生方と一緒に精一杯考え答えを出していく。全員の眼差しに灯る光の粒。

精一杯考えて出した答えは、演部門：『演劇（ヒューマンドラマ+コメディ）』、音部門：『和太鼓』『バンド演奏』、舞部門『ダンス』『ライブペイント+書道パフォーマンス』観客参加型部門：『クイズ違和感』『競馬予想クイズ』となった。子どもたちの意見がたっぷり盛り込まれたものである。

少ない練習時間をフル活用し発表を創り上げ、当日を迎える。舞台上には精一杯自分を表現しキラリと輝く子どもたちの姿が。最後は全員が舞台に立ち、来てくださった方々に感謝を込めて全校合唱を披露。観客の皆様のキラリと輝く笑顔と大きな拍手に包まれ、新しい学校祭の幕を閉じた。

体育館にいる全ての人が輝きに包まれた素晴らしい一日だった。

